

2017年度 卒業生答辞

本日、私たち卒業生一同は、晴れて卒業式を迎えることができました。この学生生活最後の日であり、新たな門出となる日に、お忙しい中、ご列席くださいました先生方、並びにご来賓の方々に厚く御礼申し上げます。

また、私たち卒業生のためにこのような盛大な卒業式を挙げてくださいましたこと、そして、学長から温かいお言葉をいただいたことに深く感謝いたします。

今日、この場に立つと、改めて大学生活の思い出がよみがえってきます。今から4年前、これから始まる大学生活の期待と希望に胸を膨らませ、この同じ会場で入学式を迎えた日がつい先日のように感じられます。

入学した直後は、右も左も分からず、戸惑うことも多く、楽しみよりも不安な気持ちのほうが大きかった気がします。

高校時代とは違い、多くの興味深い科目の中から、自分で履修計画をたて、自分で学びたい科目を選び、時間割を作成する大学での学びに、一人で戸惑い、苦勞していた時、同じ学部の同級生に声を掛け、助け合うことで友人の輪が広がっていったのは、今思い返すと、孤独で不安な学生生活が、これから友人と過ごす楽しく明るい学生生活への期待に変わった瞬間であったと思います。

1年次では、大学での講義スタイルや経済用語に慣れることに必死でした。しかし、半年を過ぎると、入学当初、難しいと感じていた時間割作成や単位の計算、授業についていけるかという不安も、周囲の友人に話を聞いてもらったり、一緒に授業を受けるうちに次第に解消され、自分から積極的に話しかけることで、経済学部以外の人たちとも仲良くなることができました。

2年次になると、授業の専門性が増したうえ、ゼミナールも始まったため、今までになく能動的に活動する場面が増えました。時には、専攻科目の難しさに頭を悩まされることもありましたが、先生方や友人に支えられ、経済についての奥深さを知ることができました。

3年次では、授業にも慣れ、余裕をもって学生生活を過ごせるようになりました。と、同時に周囲の友人と将来についての話をすることが多くなり、「どんな仕事に就きたいのか」、「卒業後、何をしたいのか」と、自分の将来を本格的に考える時間が多くなっていきました。

そして、4年次。大学での勉強の集大成の年として、課題に苦勞しながら、何とか授業についていきましたが、就職活動では、社会という現実を知り、時には自分の未熟さに落胆しました。「自分のやりたいことは何か」、「どのような道に進むべきか」が分からなくなり、自問自答する日々の繰り返しでした。今思うと、この時期は、初めて自分自身と本気で向き合っていた時期だと思います。

そんな就職活動を乗り越え、今、社会での新たな目標を持ち、この場に立つことができたのは、自分で考えて、道を切り開く力を教えてくれた先生をはじめとする教職員の方々、親身に話を聞いてくれたり、励ましてくれたりした友人、そして、常に支えとなってくれた両親のおかげです。

これ以外にも、語りつくせぬ様々な出来事がありました。神奈川大学での4年間は、人と人とのつながり、助け合うことの尊さを身をもって感じることもできた時間となりました。私にとって、かけがえのない宝物で、永遠に忘れることはないでしょう。

4月からは、皆それぞれ、自分の道を進みます。社会に出る者、大学院に進学する者、自分の夢の実現のために活動する者。色んな道があるでしょう。しかし、各々が選択した道は違えど、神奈川大学の学生であったことは、永遠に変わることはなく、一緒に過ごした仲間は、ずっと仲間です。

私たちは、この大学生活で得たものを、これからの人生に活かし、新たな目標を掲げて、未来へ羽ばたいていきたいと思います。そして、神奈川大学の卒業生であることを誇りに、社会の一員として、日本の発展に尽力し、貢献することで、神奈川大学への恩返しになればと思います。

最後になりましたが、私たちを温かくご指導して下さった先生方、陰から支えて下さった事務職員の方々、経済的、精神的に私たちをサポートし、育てて下さったご父母の方々、並びに、ご多忙の中、ご列席くださりました方々全員に、卒業生を代表して、感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思います。

皆さま、4年間、私たちを温かい目で見守ってくださり、本当にありがとうございました。

以上、卒業生を代表して、お別れとお礼の言葉とさせていただきます。

2018年3月19日

卒業生代表 経済学部経済学科 宮地美佑